

第20回ITER理事会の開催結果について

平成29年7月



文部科学省



第20回ITER理事会の日程及び議題

日程： 2017年6月21日(水)－22日(木)

場所： ITER機構本部(フランス、サン・ポール・レ・デュランス市)

議長： 南宮(ナムクン) 浦項工科大学浦項加速器研究所名誉教授

出席者：

日本：増子 大臣官房審議官(研究開発局担当) ほか

欧州：トーマス 欧州委員会エネルギー副総局長 ほか

米国：ピンクリー エネルギー省科学局局長代行 ほか

ロシア：ボロフコフ ロシア連邦政府国防産業委員会委員長 ほか

中国：黄(ホアン) 科学技術部副部長 ほか

韓国：リ 未来創造科学部核融合・未来原子力エネルギー課長 ほか

インド：グローバー ホミ・バーバ国立研究所所長 ほか

ITER機構：ビゴ機構長、多田副機構長 ほか

議題：

(1)開会挨拶(議長、各極代表、機構長)

(2)ITER機構活動報告、諮問委員会等からの報告

(3)ITER計画の進捗状況

(4)ITER機構の予算(2017年予算執行状況、2018年予算案等)

(5)その他

第20回ITER理事会(2017年6月)の結果概要

- 昨年暫定合意されたスケジュール見直しに伴うコスト増※について、引き続き暫定合意を維持することが確認された。同時に、最終合意に向けた各極国内調整については、一部極において財政当局との調整が終了するとともに、欧州において欧州委員会としてITERコストにコミットする文書が欧州理事会・欧州議会に提出されるなど、全体として着実に前進していることが確認された。

※前回理事会よりも精査され、約51億ユーロ増(1ユーロ=125円とした場合、約6,350億円。うち日本負担分は約560億円)に改訂

- また、2025年運転開始に向けた主要行程はこの間着実に達成。なお、一部の小規模な遅延については、スケジュール維持のための適切な措置が実行されていることを確認した。
- その他、本年のITER運営評価(協定に基づき2年に1度実施)を日本人チームが実施することを決定。米国提案により開始した個別課題の独立専門家レビューについては、ITER機構に過度の負担とならない範囲で来年度も継続していくことを決定した。

<ITER運営評価2017 運営評価チーム>

樋口 清司 宇宙航空研究開発機構技術参与(元国際宇宙航空連盟議長)

長谷川 義幸 宇宙航空研究開発機構客員顧問

加藤 崇 日本アドバンステクノロジー株式会社取締役

尾崎 正弘 PwCコンサルティング合同会社パートナー

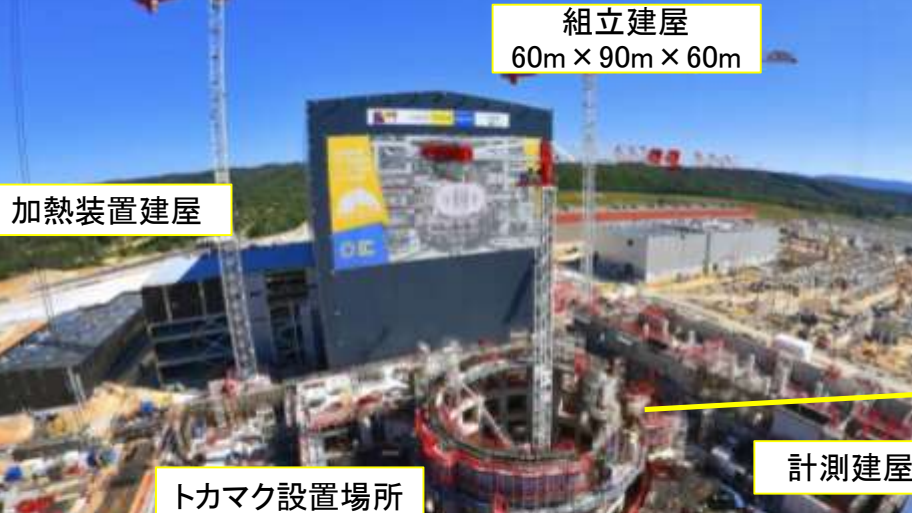
- 次回、第21回ITER理事会は、2017年11月15、16日に仏・カダラッシュで開催予定。

ITERサイトの建設状況等

○ITER建設サイトでは、トカマク本体を囲う遮蔽壁の3階部分の建設、周辺施設(計測建屋、加熱装置建屋等)の建設、電源設備の設置等の建設活動が進捗。

○2017年6月21、22日に開催された第20回ITER理事会では2025年運転開始(ファーストプラズマ)に向けて着実に建設作業が進捗していることが確認された。

トカマク建設現場(2017年6月)

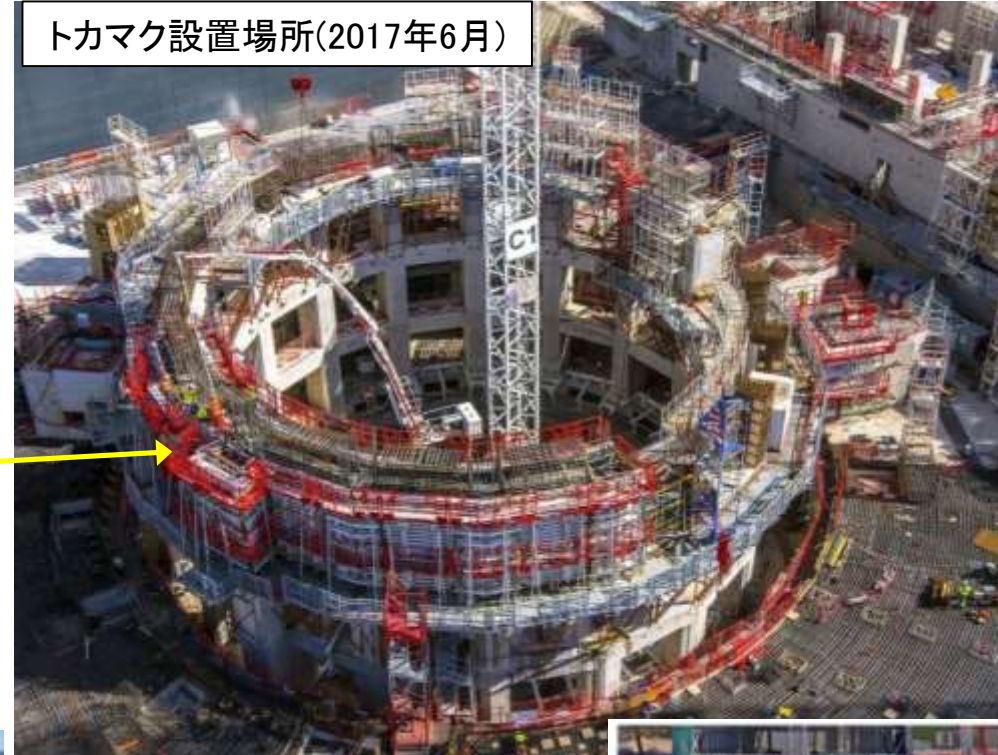


- 60mの組立建屋が建設され、現在内部設備を据付中。組立建屋への1,500tクレーンの設置完了
- 周辺施設(計測建屋、加熱装置建屋等)や電源等の整備が進捗



(2015年4月)

トカマク設置場所(2017年6月)



- トカマク基礎部分は完成。現在はトカマク本体を囲う遮蔽壁について、3階部分(全4階)を建設中(トカマク建屋は2021年完成予定)



(2016年4月)